

所内研修① 局長講話「南部広域行政組合の組織について」
新炉建設準備室主幹兼係長講話「南部のゴミ処理について」

島尻教育研究所は、南部広域行政組合の一部事務組合によって運営されています。

過日、所内研修①で、「南部広域行政組合の組織について」知花賢正事務局長、「南部のゴミ処理について」知念正樹新炉建設準備室主幹兼係長にご講話いただきました。

ふだん接することの少ない行政関係の職種の役割を知ると同時に、行政ならではの苦勞の一端について理解する機会となりました。

研究所の成り立ちは、他地区との研修機会の格差を解消するという強い理念の元、平成6年に設立されました。当時の教育長会の「島尻は一つ」の思いから設立に至った経緯を拝聴し、研究員はさらに研究意欲を新たにしました。



知花賢正事務局長



知念正樹主幹兼係長

1. 研修名 所内研修① 南部広域行政組合事務局長講話「南部広域行政組合の組織について」
新炉建設準備室主幹兼係長講話「南部のゴミ処理について」
2. 趣 旨 南部広域行政組合の組織や事業内容について理解することにより、今後の研究活動の充実に資する。
3. 期 日 平成28年4月13日(水)9:00～11:30 南部福祉センター2F大会議室
4. 研修内容
 - (1) 「南部広域行政組合の組織について」 講師 南部広域行政組合 知花賢正事務局長
 - ① 南部広域行政組合について
 - ② 組合の組織及び事業について
 - ③ 組合を取り巻く状況と今後の展開他
 - (2) 「南部のゴミ処理について」 講師 新炉建設準備室 知念正樹主幹兼係長
 - ① 最終処分場についての現況について
 - ② 循環型社会の姿 (リデュース)(リユース)(マテリアルリサイクル)(サーマルリサイクル)他

局長講話では、南部広域行政組合は南部の市町村行政の一部を担う団体としての業務内容、島尻教育研究所の設置に向けては、歴代の所長をはじめ多くの先生方の苦勞があり現在に至ったことは本当にありがたいことです。

新炉建設準備室主幹兼係長講話では、南部のゴミ処理について、これまでの経緯をDVDを通し視聴することで、身近にある問題であるがここまで深刻なものであることは知りませんでした。局長講話や知念係長の講話から初めて知ることがたくさんありました。(糸満市立兼城小学校 上原司)

「今のままでは、ますます(島尻と県の教育の)格差が広がる」と、将来を危惧された当時の市町村長や教育関係者が尽力されたお陰で、今のこの教育研究所があり、繋がっているのだとわかりました。

また、最後に話された「今だ!という時に燃え上がらなければいけない」という言葉に、物事のタイミングの大切さを感じ、サブタイトルにもある「担う」が、最重要キーワードだと思います。

(八重瀬町立白川小学校 山城昌義)

第1回の所内研修は「南部広域行政組合」についての局長講話でした。本組合にはゴミ処理の課題を解決すべく新炉準備室や施設課、総務課があり、そして島尻教育研究所があることやその沿革を知りました。また本研究所は先輩方の「島尻は一つだ」という考えと、研究所は島尻の先生方と他地区の先生方との教育指導の格差が生まれないようにするための考えが一致してできたすばらしい場所なのだと改めて感じました。

知念主幹兼係長の講話内容は、昨年度の4年担任をしていて社会科でゴミについての学習単元があり、東部清掃施設を見学し説明を受けていました。ゴミ問題は生活している以上、私たちの生活から切り離せない問題でもあるので、しっかりと子ども達に話し、考えていきたいと思えます。

(南城市立佐敷小学校 久保田力也)

講話①では「南部広域行政組合について」、知花賢正局長より組合の話がありました。南部広域行政組合は「一部事務組合」で島尻地区市町村の支援により運営されていることが分かりました。さらに、島尻教育研究所は当時の宮城恒彦所長を始め、関係者の強い思いで設立できたことが分かりました。今、ここで研究員として研修できることに感謝するとともに、責任感をもって取り組みたいと思います。

講話②では「新炉建設」について、知念正樹主幹兼係長から現状について説明がありました。三つの組合で運営している状況ですが、最終処分場はうるま市の協力で行われているとの事です。糸豊では、福岡県まで船で運搬している状況です。この現状から、管内での最終処分処理施設の建設が急務であることが確認された。それを受けて平成30年から自区内でゴミの最終処分処理施設が完成することです。(糸満市立西崎中学校 下地秀隆)

